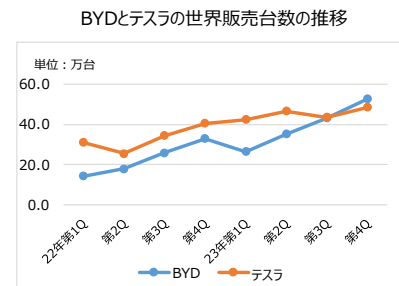


高コストパフォーマンスで急成長する中国EV

◆中国のBYDがEV販売台数でテスラを抜き世界一に

2023年10～12月のBYDのEVの世界販売台数は約52万台と、テスラの約48万台を抜いて、四半期として初めてEV販売台数世界一となった。テスラの販売台数も増加傾向にあるが、BYDは販売台数が2年間で約4倍になるなど急成長している。

BYDの急成長の理由として、性能に比して手頃な価格設定が挙げられる。例えば日本での販売価格をみると、テスラが560万円以上なのに対し、BYDは363万円からとなっている。中国では200万円以下の車種も販売しており、テスラは対抗上、中国で販売価格を引き下げざるを得なくなっている。



BYDのEVが安価なのは、希少金属の使用が少ないバッテリーを自社で開発・生産しているためといわれる。EVの価格の30～40%はバッテリーの価格が占めており、安価なバッテリーを自社生産できることがBYDの強みとなっている。

BYDとテスラの日本での販売価格と航続可能距離

	BYD	テスラ	(参考) トヨタ：bZ4X	(参考) 日産：リーフ
日本での販売価格帯	363～440万円	560～1,666万円	550～650万円	408～445万円
航続可能距離	400～480km	543～706km	540～567km	322km

出所：各社ホームページよりARC作成

◆米国やEUは中国製EVへの警戒を強める

欧米諸国は、価格競争力のある中国製EVに対し警戒を強めている。米国は、22年に発効したインフレ抑制法において、EV購入の際の税額控除の要件として、北米での最終組み立てを求めたり、バッテリー主要材料の調達先国を限定したりするなど、中国製EVやバッテリーを実質的に締め出している。またEUは、中国製EVが政府から多額の補助金を受けて不当に安価で販売されているとして、23年10月に調査を開始し、相殺関税の導入を検討している。四半期とはいえ、BYDがEV販売台数世界一となったことは、中国製EVが世界を席巻している象徴的な出来事となり、欧米諸国の警戒がさらに強まる可能性がある。

【今村弘史】